

令和4年度 第1回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	令和4年度 第1回安曇野市博物館協議会
2	日時	令和4年5月24日 午前10時から午前11時40分まで
3	会場	安曇野市豊科交流学習センター「きぼう」多目的交流ホール
4	委員出席者	野口委員、百瀬委員、森本委員、宇田川委員、伊藤委員、金井委員、笹本委員、古川委員、城戸委員、小口委員
6	事務局出席者	矢口教育部長、山下文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館原館長、豊科近代美術館荒深館長、田淵行男記念館兼飯沼飛行士記念館中田館長、高橋節郎記念美術館宮澤館長、穂高陶芸会館小倉館長、貞享義民記念館寺島館長、臼井吉見文学館平沢館長、逸見博物館担当係長、三澤文化課長補佐兼文化振興担当係長、曽根原文化振興担当主事、塩原文化振興担当主査
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	4人（うち記者 1人）
9	会議概要作成年月日	令和4年6月1日
協 議 事 項 等		
○会議の概要		
1	開 会	（文化課長）
2	あいさつ	（教育部長）
3	自己紹介	
4	説明（博物館協議会について）	事務局より博物館法、安曇野市博物館条例等について説明。
5	会長及び副会長の選出	互選により、会長：笹本委員、副会長：百瀬委員で決定
6	報告・協議	
	(1) 令和3年度各館事業報告（資料1）	
	・委員より意見	
委 員	新市立博物館構想の概要資料は非常にわかりやすく作成されている。今後も中長期的な取り組みについて具体的に示していただきたい。個人的な興味として「太子堂の上映会」満願寺に子どもたちが疎開していたことに驚いた。上映会については、もっと多くの人に知っていただいた方が良い。行事の周知徹底をお聞きしたい。近代美術館の対話型鑑賞授業は、発問する側がどう問いかけるかが問題だが、美術館の考えをお聞きしたい。	
事 務 局	世田谷区の太子堂の映像は、この度映像をいただいたので自由上映ができる。チラシ、市報、市民タイムスなどに掲載し15～20名に参加いただいた。R4年度の戦争	

	展でも3回上映する。
会 長	太子堂と疎開がイメージとしてうまく結びつかないので、周知に努めてほしい。
事 務 局	学芸員からの発問は非常に重要。子どもを対象とした鑑賞のスキルは近隣の美術館とも協力してレベルアップしていきたい。
委 員	新市立博物館構想は促進してもらいたい。ただ入館者が少ないのは税金で運営している以上は努力も必要ではないか。館の場所も知られていないので、企画展を通じて宣伝して欲しい。地元の民間を活用し、研究者も発掘して欲しい。日展も非常に良かったが、2回目の来館者に割り引くなど工夫してはどうか。
会 長	入館者増のための具体的な方策はあるか。
委 員	マスコミや市報、インターネットを活用するなど工夫してはどうか。
会 長	新聞等にはよく掲載されている。
事 務 局	新聞掲載は、タイミングが大事である。ギリギリの広報になってしまっていることは反省している。
事 務 局	マスコミには5月の連休中も5～6回取り上げていただいた。
委 員	館長はマスコミとコンタクトがとれる関係であるかが問われてきた。他県と比較しても、マスコミの露出頻度は高いと思う。常設展も子どもたちに対してどう広報するか課題だ。
委 員	研究環境、紀要の執筆は非常に重要。せつかくの研究内容を外部からも見えるように公開を前向きに進めていただきたい。評価されれば励みにもなる。研究する職員の勤務環境は、気がかりでならない。館の指定管理をどのように考えていくかとも関係あるのではないか。数年の間で、指定管理の館、直営の館は入れ替わっている。「紀要を作る環境」を起点に、今後の館の在り方についてじっくり考えていってはどうか。
委 員	非常勤の職員には予算のない中で紀要などの必要経費を最低限確保して欲しいという要望を私どもとしてもしていく。そんな中でもこれだけ子どもたちにも来ていただいている。また、「風土記」や「宝シリーズ」などの冊子を作り、発信は十分していると思う。博物館が今後どうなっていくべきなのかを真剣に考えていきたい。
	・新市立博物館構想について
事 務 局	平成27年度新市立博物館構想から7年経つ。博物館準備センターとして資料整理の拠点を探しているが該当施設がない。既存施設の統廃合の用地も検討してきた。課題は財源確保、用地の選定、現存の施設が現行の耐震基準を満たしていない可能性があること、収蔵環境など。またエレベーターがないことによる高齢者・障がい者の方々には申し訳ない。今後、既存施設を改修しなければいけないが、博物館を取り巻く状況は変化しており、今の情勢にあった博物館構想、既存施設とどう有機的につなげていくかを再検討する必要がある。
会 長	税金を使ってでも博物館を作りたいという理念の底辺には、なぜ必要か、新しい文化をつくるためであるといったきちんとした理由があることが重要である。
委 員	学校側としても、教育現場は限界に近いカリキュラムを組んでおり、事業を広げていくのは難しいが本物を見ることの重要さは変わらない。博物館は、来館者増を目指すのか、学術を深めるのか、またターゲットは市民なのか、学術関係者なのか、目的や価値観が背反している。子どもたちにとっても市民にとっても、見に行った際にストーリーを感じさせ、それに感動し、背景に興味を持つことが重要。YouTubeなども活用し、プロのプロモーションも取り入れながら安曇野ブランドを発信して欲しい。
会 長	ターゲットは、明らかに市民であり、市民にとって充実していない博物館は良い施

委員	設とはいえない。また研究内容に対して難しいと言われない努力も必要。 松本市美術館を利用してきたが、だんだん美術館が使いにくくなっている。そうしたことが利用者にも影響してくるのではないか。市報は、毎月イベントが羅列されているが、ビジュアルを工夫しわかりやすくしてはどうか。新市立博物館構想は統合するのではなく、既存施設をより良くし、クラスターとして運営していくのも一つではないか。
委員	広報は、職員による正統派の広報が基本とはなっているが、インターネットやSNSを活用し、ミュージアムサポーターのような方に“ユーザー目線”で魅力を発信してもらおうとよい。映画「ざんねんないきもの事典」は、徳高北小学校でも音源を録った。こうした機会を大事にしたい。
委員	市として括るのではなく、ニーズを掴むために市外ともつながっていくことが大事ではないか。考古学や、郷土博物館をとっても、インターネットを通して、同じテーマを扱っている所と、例えば「昔と今がどうつながっているか」などを情報共有してはどうか。その情報を出すタイミングも重要であろう。広域で情報交換をして、単独ではなく既存の施設同士が有機的につながっていくと良いのでは。
委員	新市立博物館構想は、市民がどれくらい必要としているかに関わってくる。図書館や交流学习センターは旧町村にそれぞれあり、利用者も多い。税金を使ってはいるが、ある程度の施設は必要だろう。少ない予算の中で、非常勤職員の方々にもよく頑張ってもらっている。豊科郷土博物館はエレベータがなく高齢者が帰られたとも聞く。ある一定以上の施設の整備は必要である。
会長	博物館が今後、どれほど動きがとりやすくなっていくかを、サポートしていくことが重要だ。各館に足を運んでいただき、長所と短所をそれぞれよく考えて発言していただきたい。
8	その他
9	閉会

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。